



# Pure 純 No.178 Pacific パ Mar.2015

純パの会会報『純パ』第178号

2015年3月21日発行 / 発行:純パの会

## “嬉しいサプライズ”が続いた野球場跡地巡り

～「パ・リーグ歴史散歩 ～駒澤野球場跡地&東京スタジアム跡地巡り～」のご報告～

岩河 正剛(東京都福生市) ※写真撮影:影山一義・塚原隆

### はじめに

昨年11月末の会報発送作業後の企画会議で、純パの会のオフシーズンイベントとして「(現存していない)野球場の跡地巡りをやろう!」ということが決定し、私が今まで会報にさまざまな野球場跡地巡りの件を投稿してきたという経験から、この企画を作成して進める事となりました。

さて、それではどの野球場跡地を巡ろうか? と、検討したところ、純パの会主催のイベントであるから、「パ・リーグに関する野球場跡地巡り」をするのがベターだと思い、その候補として駒澤球場、東京スタジアム、川崎球場の3球場を考えてみました。

このうち駒澤球場と東京スタジアムは、皆さんご存知の通り昭和30年代～40年代に東京に存在したパ・リーグの本拠地球場です。ともに個性的な野球場でファンから親しまれましたが、残念ながらやむを得ない事情により短命で終わってしまいました。その跡地には球場の跡形はまったくなく、すっかり変貌しています。しかも現在、東京にはパ・リーグの本拠地球場はありません。このような現状も考慮し、このイベントを、「過去東京に存在したパ・リーグ専用の球場～東京にパ・リーグがあった頃～を巡る」というテーマで企画を練り、その結果、今回はそれに相応しい場所である駒澤球場と東京スタジアムの両方の跡地を巡る内容で決めました。

イベントの名称は「パ・リーグ歴史散歩」と命名。2月7日(土)に開催することで最終決定しました。

(※巡る順序は東京スタジアム跡地→駒澤野球場跡地の順序で決定)

\*

……この「パ・リーグ歴史散歩」。結果的に各パートで次々と「嬉しいサプライズ」が続いたのです。それも3つも……

●歴史散歩のスタートです!



## 1. 2月7日(土)、予想を上回る参加者が集結!

今回のイベントは、純パの会のホームページ(以下HP)や前号の会報などで告知。当初、参加者はせいぜい5、6人くらいだろう、と予想していましたが、当日のJR南千住駅改札口前(集合場所)には、なんと、予想を大幅に上回る(会員、非会員合わせて)13人も集結!これには正直このイベントの影響力の大きさを感じました。

さて、その13人の中に、千葉ロッテマリーンズ球団職員の横山健一さんがおられました。この横山さんは、川崎球場時代にロッテオリオンズの内野応援団をされており、その球団への熱意!から、その後球団職員になられたという経歴の持ち主で、現在は球場運営や様々なイベントを手掛けておられるという有名な方です<sup>(※)</sup>。このような方が参加していただいた!という事が、まず最初の「嬉しいサプライズ」でした。純パの会のHPのメールフォームから参加の連絡をいただいていたのですが、なんと、今回東京スタジアム跡地のナビゲートや色々な説明をしていただける、との事。これには参加者一同大変喜びました。よって東京スタジアム跡地巡りのパートは、横山さんによるナビゲートという、なんとも贅沢な行程となりました。

【※編集担当注】残念なことに横山さんは、現在は球団を離れ、ロッテ不動産(株)葛西ゴルフ部に異動になっております。



●集合地点のJR南千住駅。  
参加者が集まっています。



●東京スタジアム跡地探訪の  
スペシャルナビゲーター、横山健一さん



## 2. 東京スタジアム跡地探訪

(南千住駅前)東京スタジアム当時のロッテオリオンズのデザインの帽子を被り、上半身を東京オリオンズ時代のユニフォームに着替えた横山さんを先頭に出発。跡地までは、当時の人々が東京スタジアムへ向かって歩いてきた道順を忠実に進みました。

●横山さんを先頭に参加者は東京スタジアム跡地に向かいます。



●青木屋さんにて。さっそくお店に並ぶ会員が

出発から10分程で、青木屋さん(調理パン屋さん。東京スタジアム当時から営業している数少ないお店の一つ)の近くに到達。すると、お店から漂う香ばしい香り? に惹かれて、参加者の足が次々止まりました。その香りの元は、店内で大量に揚げている「コロッケ」。この揚げたてのコロッケを、大きなコッペパンに2個挟んだジャンボサイズのコロッケパンが、この青木屋さんの昔からの名物なのです。当時の人々はこのコロッケパンを購入してから入場し、それをスタンドで頬張りながら野球観戦していたようです。その当時と変わらないコロッケパンをほとんどの参加者で味わいました。そんな様子を見てみると、球場跡地巡りの一行というよりは、まるでグルメツアーの一行のように見えました(笑)



●買ってきたコロッケパンをみんなで分けます



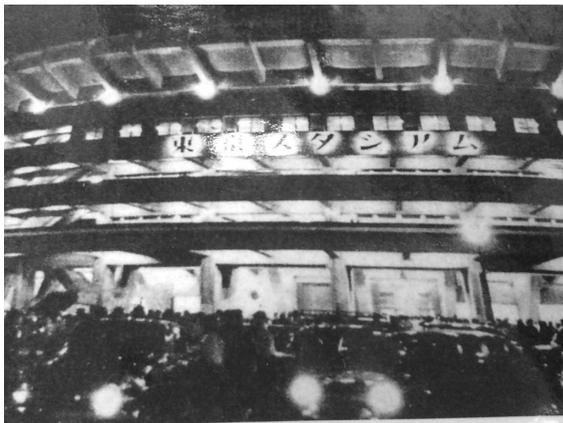
名物コロッケパンを堪能した後、いよいよ東京スタジアム跡地へ到着。現在は南千住警察署、マンション、荒川総合スポーツセンターなどが建ち、当時の面影はまったくありません。その跡地周辺を、横山さんに持ってきていただいた数多くの東京スタジアムの写真を使って説明していただきながら進みます。さらに荒川総合スポーツセンター内のロビーに入り、その片隅にあるガラスケースの前に集結。この中にわずかながら東京スタジアムに関連するものが展示されています。その前で横山さんが先程の多数の写真を用いながら、さらに詳細な説明をしていただきました。それらの写真を見

●荒川総合スポーツセンター内にある展示物



●南千住6丁目アパート前。  
この位置が、東京スタジアムの正面にあたる

●当時の東京スタジアムの正面入口



●荒川総合スポーツセンター前。  
3塁側～レフト側のカーブにあたる位置

●東京スタジアムの場内



●冬場にはスタンドを使ってスケートリンクに



●東京スタジアムの跡地にある草野球場

※当時の東京スタジアムの写真は  
横山健一さんがお持ちいただいた写真より

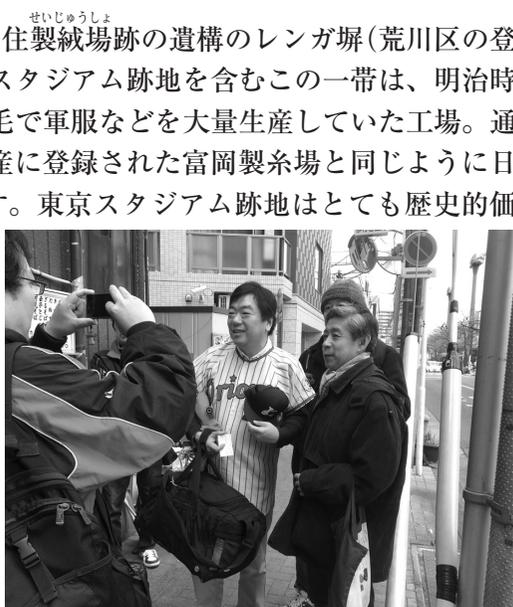
る限り、東京スタジアムは、外野スタンド以外は現在の野球場と比べてもまったく遜色ありません。そんな最先端な設備が整った球場が、50年以上前に、しかも下町の低層住宅の密集地に存在していたという事実、参加者の多くが驚きの声を上げていました。それと同時に、こんな最先端な球場がたった11年で役目を終えてしまったという事実、本当に残念！ という表情を浮かべていました(写真を見ているうち、思わずタイムマシンに乗って、東京スタジアムが存在した時代に行ってみたい気持ちに駆られてしまいました……)

その後は、再び跡地周辺を散策。当時のライトスタンドの外側だった場所がちょうど、外周道路と草野球場を隔てた金網になっていて見通しが良いので、そこでこれまた横山さんに持ってきていただいた、東京スタジアム時代にセンターポールに掲げられていた、ロッテオリオンズの本物！ の球団旗を中心にして参加者で記念撮影。ちなみにこの球団旗には星が3つ付いていますが、これは東京スタジアム時代までの球団のリーグ優勝回数を表しています。あらためて見ると、この3つの星は、トリコロールのデザインにピッタリ合っています！

その後は跡地の北東方向へ少し足を延ばし、千住製絨場跡の遺構のレンガ塀(荒川区の登録有形文化財)が現存している場所へ移動。東京スタジアム跡地を含むこの一帯は、明治時代前期から戦前までは日本初の官営の製絨場(羊毛で軍服などを大量生産していた工場。通称・ラシャ場)でした。実はこの場所は、世界遺産に登録された富岡製糸場と同じように日本の産業の近代化に貢献した重要な場所なのです。東京スタジアム跡地はとても歴史的価値が高い場所でもあったのです！

レンガ塀見学後、再び東京スタジアム跡地周辺を回り、今日の昼食の予約をしている「蕎麦処おおもり」(青木屋さんと同じく、東京スタジアム当時から営業しているお店)さんの前で探訪は終了。そこで参加者各々で横山さんと記念撮影などを行い、終了後、そこで帰られる横山さんにお礼を述べてお別れしました。

横山さん、貴重な時間を本当にありがとうございました。



●横山さんと記念撮影



●千住製絨場跡の遺構のレンガ塀の前で



●レンガ塀についての説明

### 3.ゆかりの蕎麦屋さん(蕎麦処おおもり)で昼食

前もって予約はしていたものの、予想以上の参加者であったため、全員入店出来るか少々不安でしたが、なんとか入店。店内では、東京スタジアムに関する資料やコピー、文献などを前もって用意していただいております、参加者でそれらを拝見させてもらいました。



●「蕎麦処おおもり」にて昼食を堪能中

皆の食事が終わりだした頃に、店主の大森啓市さんから東京スタジアムやオリオンズの思い出などを語っていただきました。大森さんは中学生の時に東京スタジアムが出来たこともあり、当時を知る貴重な証人として、東京スタジアム関連のテーマがマスメディアに取り上げられる時は、度々登場されている有名な方です。すべての話が興味深かったですが、特に印象的だったのは、球場内へ出前を一日何十回(30回以上?)も届けていた、ということ。なんとベンチやブルペンまで直接届けていたそうです。現在ではとても考えられません(それだけのどかな時代だったという事なのでしょうか?)。また、有名な「アルトマンはきつねそばの大盛りを食べた日にホームラン2本打ったので、それ以後はきつねそばばかり注文していた」という話も(ちなみに私はそのきつねそばを注文しました)。当時を体験している方なので、すべての話に実感がこもっていました。

話が終わった頃、大森さんから純パの会とはどういう会なのか?と聞かれたので、口頭で簡単に説明後、田中尚さんが純パの会の会報(今回の歴史散歩の件が告知されている最新号)を大森さんに渡して紹介しました。

大森さん、貴重なお話しありがとうございました……

\*

……店を後にして、皆で南千住駅に向かって進んでいる途中、千住間道と日光街道の交差点の信号で止まっていた、ちょうどその時でした……

いきなり後ろから「岩河さんはいますか?」という声が!思わず振り返ると、その声の主は、なんと、自転車に乗って追いかけてきた先ほどのおおもりの店員でした。まったく予期せぬシチュエーションのため、思わず「なんか店で不正でもやらかしたか??」とドキッとしましたが、その店員は、手に持っていた店主(大森啓市さん)の名刺と千円札3枚を見せてこう言ったのです。

「純パの会に入りたいので、入会します!」

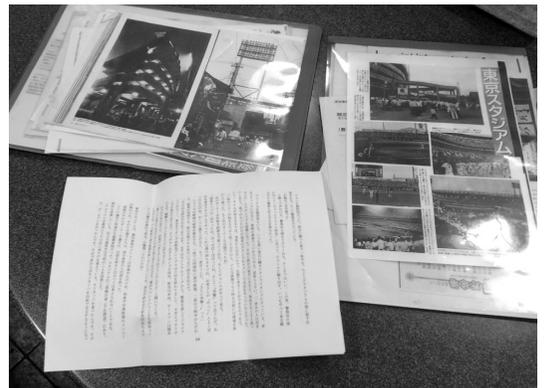
なんとなんと!!店主の大森さんが純パの会に入会すること!しかも、わざわざ我々を自転車で追いかけてきてまでです。確かに先ほど純パの会を紹介しましたが、それもほんの15分くらい前のことです。あまりの突如な出来事に、そこに居合わせた一同本当にびっくりしてしまいました。これが二つ目の「嬉しいサプライズ」でした!

大森さん、電光石火でスピーディーな?ご入会ありがとうございました。これからもよろしく願います!

- 「蕎麦処おおもり」の店舗。  
交差点をはさんで反対側には荒川総合スポーツセンターがあります。



- 「蕎麦処おおもり」のご主人、大森啓市さんから当時の思い出話を語っていただきました



- ご用意いただいた当時の東京スタジアムの資料  
ちなみに手前の文章は、この夏に刊行予定の、東京スタジアムに関する書籍の一部分とのこと。



- 東京スタジアムの跡地をバックに、オリオンズの球団旗とともに記念撮影

#### 4. 駒澤野球場跡地探訪

東京メトロの南千住駅から乗車し、地下鉄を乗り継いで最寄り駅の駒沢大学駅へ到着。改札を出ると、先ほどの「おおもり」さんを皆より先に出て、先回りしてここに来ていた参加者の中川克己さんと合流。地下通路の壁面に貼ってある駒沢オリンピック公園周辺の地図の前で参加者に駒澤球場があった位置の事を話していると、中川さんから、

「もう一人呼んでいる人がいるので、あとで現地(球場があった場所)で合流します」  
との事。

もう一人の人？ それはどんな人なのか…？  
その時はあまり考えずに(球場跡地の)駒沢オリンピック公園に向かいました。10分ほどで公園内に入園後、園内を数分歩き、当時の駒澤球場の正面入口があった場所である、体育館と第二球技場の間あたりに到着。そこで私が用意してきた、球場があった当時(1955年)の地図とほぼ現在(2000年)の地図のコピーを綴じたもの(10~11ページ参照)を参加者に配布して、私から簡単に駒澤球場の説明をしました。



●地図を見ながら位置を確認

駒澤球場は、1964年開催の東京オリンピックの競技施設を建設するため、1961年を最後に取り壊されました。その際球場周辺も更地状態にされたため、球場を偲ぶようなものやゆかりの建物などまったくありません。そんな現状のため、球場があった場所とほぼ同じ位置にある第二球技場周辺を、地図のコピーを見ながら参加者でぐるっと散策していました。

ちょうど(第二球技場の)メインスタンド正面入口付近に来たときに、先ほどの中川さんと合流。その中川さんの後から、東映フライヤーズの帽子を被った老人の方が現れました。この人が先ほど言っていた“もう一人の人”でした。その人とは……



●中川克己さんが天野禎さん(写真右)とともに駒澤球場跡地に到着

天野禎<sup>てい</sup>さん(なんと御年90歳!)という方で、以下のような経歴の方でした。

- 1954(昭和29)年、東映に入社後、すぐに東映球団に職場異動。
- 駒澤球場時代、ずっとグラウンドキーパーをしていた。
- 駒澤球場亡き後は、多摩川グラウンド(フライヤーズ⇒ファイターズの練習場)のキーパーを、グラウンドが国に返還された85歳の時(2011年)までしていた。
- 現在の鎌ヶ谷(ファイターズタウン)の練習場建設に際し、尽力された。
- このように、東映⇒日拓ホーム⇒日本ハム⇒北海道日本ハムと、50年以上球団一筋。
- 『野球小僧』2011年6月号の特集に、御自身が取り上げられた。

(岡邦行「グラウンドキーパー・天野禎さんの人生 多摩川グラウンドとともに49年 さよな

ら多摩川 —— 3月31日に閉鎖した、日ハム多摩川グラウンドの名物キーパー」)

なんとなんと!! 駒澤球場で実際に働いていた方でした! いや、それどころか、東映フライヤーズ~北海道日本ハムファイターズになるまで、50年以上も球団に携わってきた方だったのです! 駒澤球場の事をお聞きするには、これ以上ない最適な方です。この天野さんと、しかも“実際に駒澤球場があった場所”で初めて巡り合えたのが、三つ目の「嬉しいサプライズ」でした!(中川さん、ありがとうございます)。

駒澤球場跡地巡りパートの後半は、この天野さんからお話を伺うかたちとなりました。

### 5. 天野偵さんのお話 etc

お話は、(駒澤球場とほぼ同じ位置にある)第二球技場内に入場し、当時の3塁側スタンドとほぼ同じ位置にあるメインスタンドのベンチに腰掛けてお聞きしました。

お話によると、駒澤球場時代は本職のグラウンドキーパー以外にも、球場のフェンスの広告看板や試合の告知看板まで自ら作成していたとの事です。まさに親会社が映画会社ならではの事情なのでしょうが、それにしても作成した数も相当なものだったでしょう。当時の御苦勞が偲ばれます。それに関するエピソードですが、ある年の対阪急戦の告知看板作成の時に、(東映のホームだから)“東映対阪急”と当然ホームチームを最初を書くべきところを、間違えて“阪急対東映”とビジターチームを先に書いてしまったことがあった… そうです。現在と違ってすべて手書きで作成していた時代ならではの貴重なエピソードです。



日拓ホーム華やかにユニホーム7色の「レインボー作戦」

**東急フライヤーズ**

祝駒澤球場開場  
秋のスポーツ用品

野球・硬球・陸上競技用品等秋のシーズンズを  
迎えて各種取扱い

渋谷 池袋 東横

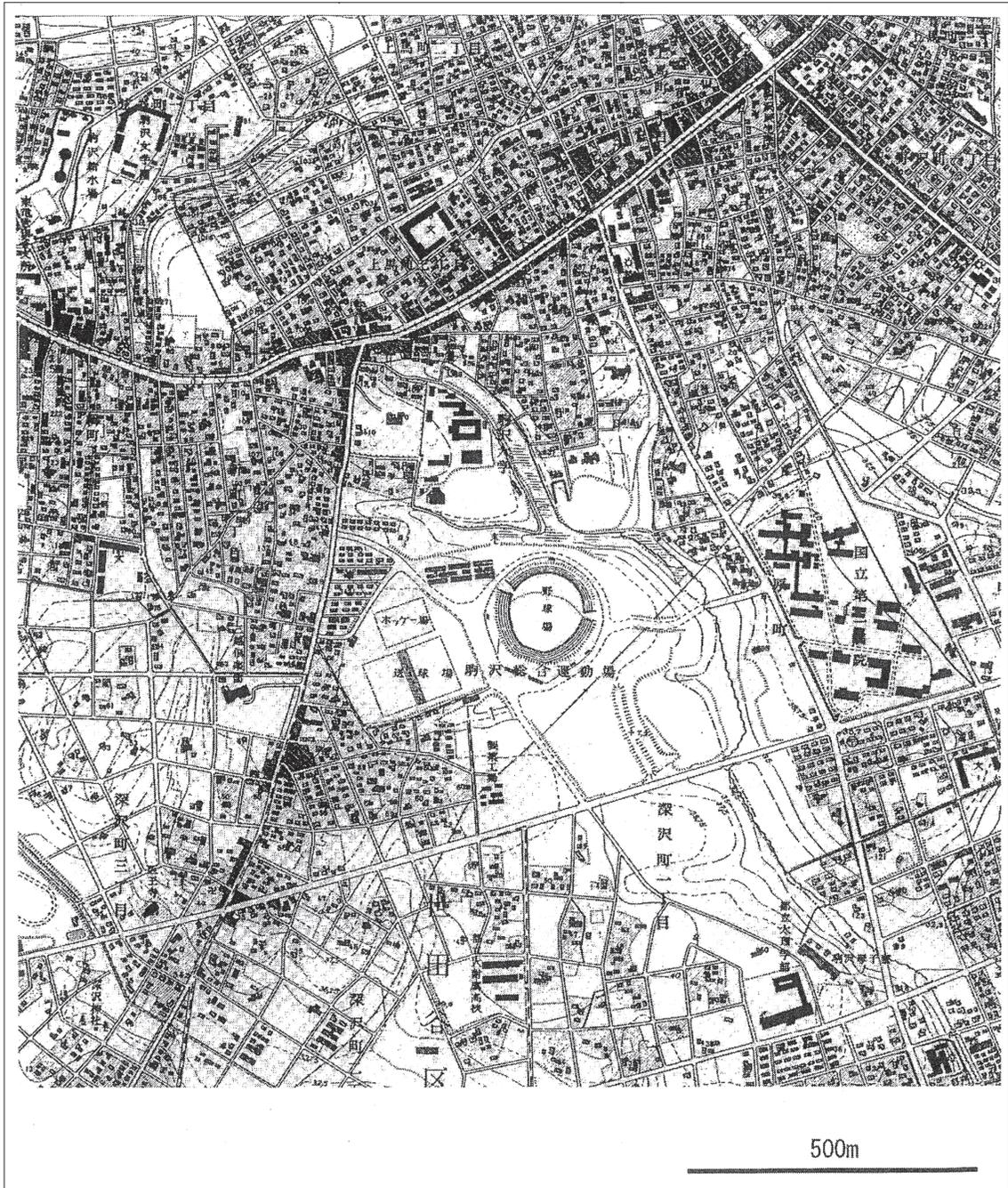
駒澤球場の歴史

1946(昭21) 建設プロ野球 球団 8年目	1954(昭29) 東映フライヤーズ誕生(年別別記)	60-63 古田晋
49(昭24) 東映7色ユニフォーム	30 1原晋一	64-66 近藤隆夫
50(昭25) 先映7色ユニフォーム	31-35 湯浅義彰	67 土柳
52(昭27) 井野川健吾	36-40 北沢	
	41-45 田中	
	46 田中	
	47 田中	
	48 田中	
	49 田中	
	50 田中	
	51 田中	
	52 田中	

- 天野さんが当日お持ちになった資料に見入る参加者
- (左) 日拓ホーム時代の7色のユニフォームの集合写真(実際はカラー)
- (右) 駒澤球場開場時に配布された東急フライヤーズのPR紙

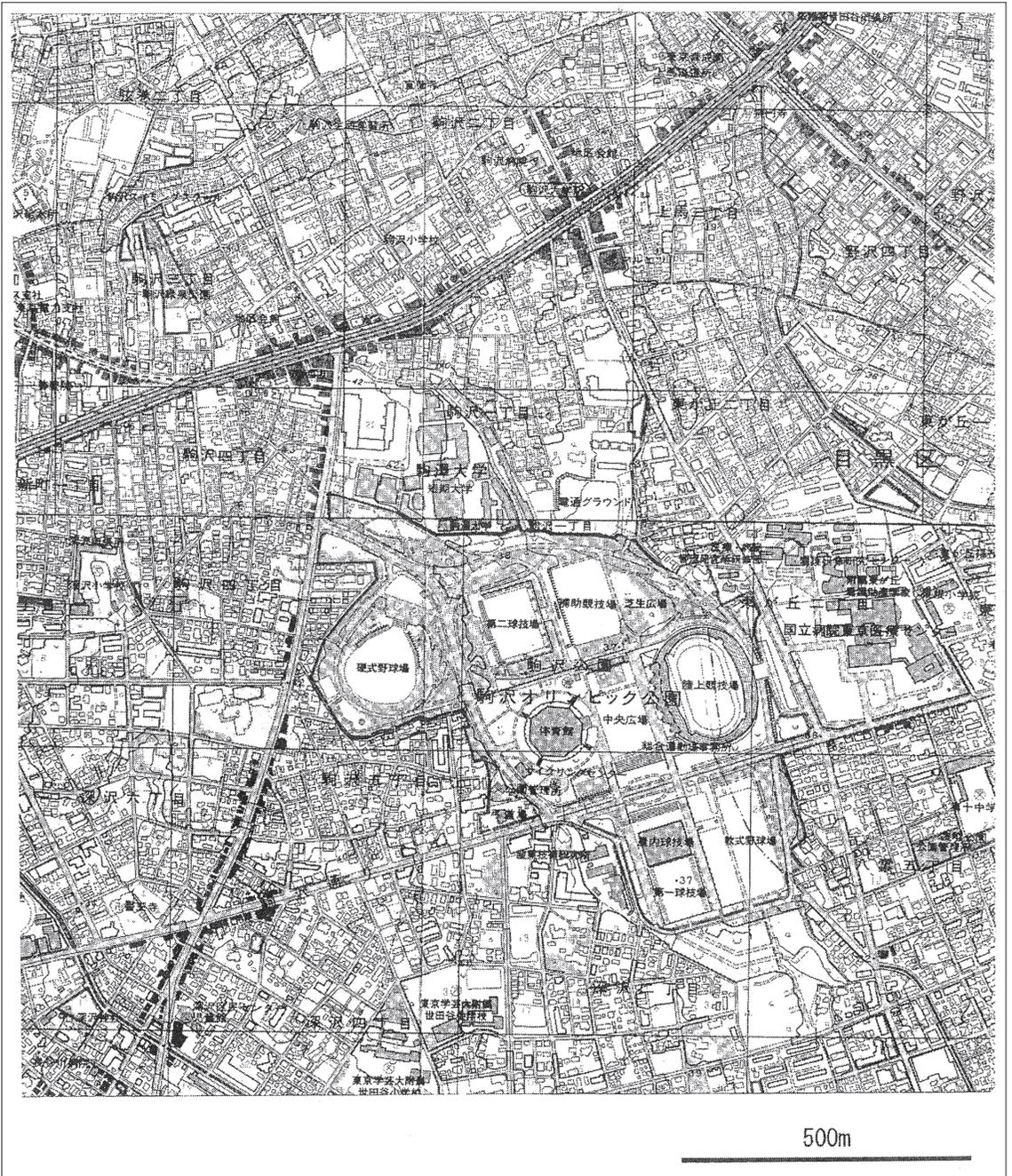
## ● 1955年頃の駒沢

※地理調査所発行 1万分の1地形図(碑文谷)から作成



# ●2000年頃の駒沢

※国土地理院発行 1万分の1地形図(世田谷・自由が丘)から作成





●天野さんを囲んで当時の話を伺っています



●天野さんにお持ちいただいた  
尾崎行雄投手のサインボール



●第二球技場に入ってグラウンドを眺める



●当時、東映フライヤーズの合宿所があった場所  
駒沢公園を出てすぐのところでした

また、この日は東映OBの怪童・尾崎行雄氏(故人)のサインボールを持っておられました(マスターズリーグの時のサインボールだそうです)、そこから選手のサインの話題になり、昔は天野さんがファンから直接色紙をどっさり渡されて選手のサインを頼まれていた、との事でした。そして、その色紙のその後は……(ここでしか聞けない“意外な結末”でした)。

どれも当時を経験した人にしか語ることの出来ない、大変貴重なお話しでした。

その後は、第二球技場を離れて、無私寮(東映フライヤーズの合宿所だった所)があった場所へ移動。現在は二つのマンションが建ち、都心近郊の落ち着いた街を形成する駒沢界隈の典型的な一角となっています。しかし、かつてこの場所では、任侠映画に登場する強面役者のような“駒澤の暴れん坊”たちが一つ屋根の下で共同生活していたのです。そう考えると、過去と現在のギャップにたまらない感慨に浸りました。

無私寮跡地の場所で、探訪は終了。天野さんとはこの場でお別れしました。

天野偵さん。寒い中大変貴重なお話をお聞かせいただき感謝しております。本当にありがとうございました！

## 「パ・リーグ歴史散歩」に参加して

山下 威(埼玉県川越市)

2月7日(土)、第1回の「パ・リーグ歴史散歩」に参加しました。当日は一昨日の雪が舞う天気と打って変わって、太陽の光がまぶしく感じる晴天でした。

今回は、大毎～東京～ロッテ・オリオンズの本拠地だった「東京スタジアム」と、東急～東映フライヤーズの本拠地だった「駒澤球場」の二か所でした。

二か所とも、前者はマリーンズ職員(当時)の横山さん、後者は長年フライヤーズを支えてこられた御年90歳の天野さんの、スペシャルナビゲーターに当時のエピソードを面白おかしく語って頂き、大変おもしろい「散歩」となりました。この企画者である岩河さんはじめ、事務局の方々に感謝したい気持ちです。

今回の「散歩」を通じて、二か所とも、そこに球場があったことを示す記念碑的な物が何もないことに、私なりに憤りを感じました。プロ野球は、一企業の宣伝広告媒体の1つであるかのように日本では思われがちですが、立派な地域の大衆文化です。それゆえに球場は「有形文化財」であり、チームは「無形文化財」です。これらの歴史を後世に伝えていくのも行政の役割だと思います。

しかし、現地を「散歩」して、何もありませんでした。本当に寂しさを通り越して、侘しさすら感じました。

大げさな例えですが、今年は「戦後70年」で、年々戦争体験を語る人が少なくなっていることを憂える声が出ています。パ・リーグの現在～未来を語る上でも、過去の歴史を知ることは必要だと考えます。

その意味でも、純パの会が、パ・リーグ文化の語り部としてでも活動していかなくてはいけないとも思いました。

次回の開催も大変楽しみにしています。

(2月9日)

全行程終了後、駒沢大学駅から地下鉄を乗り継ぎ、神田駅へ。懇親会会場のリリーズ神田スタジアムへ到着後、参加者たちと本日の「パ・リーグ歴史散歩」のお疲れさん会を行いました。

参加者の皆様、今日は一日都内を西へ東への移動の連続、大変お疲れ様でした！

### おわりに

以上の通り、今回の「パ・リーグ歴史散歩」は、東京スタジアム、駒澤球場各パートとも、予想以上に中身の濃い充実した内容になりました。その理由はもちろん述べてきたとおり、それぞれのパートでご協力いただいた3名の方(横山健一さん、大森啓市さん、天野慎さん)のおかげであります。本当に心から感謝します。

そしてもう一つ。この日は終日好天&無風でした。この日の前々日&前日、そして翌日が悪天候であった事を考えると、ちょうどこの日だけ天気に恵まれたという事は本当に幸運でした。あらためて天にも感謝します。いずれにせよ、この「パ・リーグ歴史散歩」の企画作成&実行を担当した私にとっては、このイベントがトラブルもなく無事に終了し、また、

参加者の方々に満足をいただけた事に、心底ほっとしました。

「東京にパ・リーグがあった頃」を大いに堪能する事ができた今回の「パ・リーグ歴史散歩」。結果的に大好評でありましたので、今後も純パの会のオフシーズンイベントとして続編を企画する予定です。  
(2月28日)



●駒澤球場跡地にある駒沢公園第二球技場のスタンドにて

**「パ・リーグ歴史散歩 ～駒澤野球場跡地&東京スタジアム跡地巡り～」参加者**

(敬称略・順不同)

＜純パの会・会員＞

岩河正剛、塚原隆、田中尚、影山一義、稲葉敦雄、大沢稔、山下威、中川克己、寒河江健、酒巻明夫(東京スタジアム跡地のみ)、高橋豊(駒澤野球場跡地のみ)

＜会員以外＞

神田裕子(塚原さんの従兄弟)、豊吉哲司(岩河の知人。東京スタジアム跡地のみ)

＜ご協力いただいた方＞

☆東京スタジアム跡地

- ・横山健一(千葉ロッテマリーンズ球団職員)
- ・大森啓市(蕎麦処おおもり・店主)、及びお店の方々

☆駒澤野球場跡地

- ・天野<sup>てい</sup>偵(元東映フライヤーズ球団職員)

# 「高橋ユニオンズ」その濃密な3年間のあゆみが本に！

影山 一義(埼玉県越谷市)

毎月最終水曜日、都内で「昭和20年代野球倶楽部」<sup>(※)</sup>という、古い時代の野球史を語り合う集いがある。ここには野球史の研究者だけでなく、スポーツ紙の現役記者やライター、編集者、大学教授など老若様々な野球好きが集まり、私もその末席に加わらせていただいている。

2013年7月の集まりでは「高橋ユニオンズがあった時代」と題して、今なお日本で唯一の個人所有の球団として、3年間だけパ・リーグに存在していた高橋ユニオンズをテーマに、長谷川晶一氏(『最弱球団 高橋ユニオンズ青春記』著者)と、ユニオンズの高橋龍太郎オーナー(故人)の外孫にあたる秋山哲夫氏をゲストに迎えておこなわれたのだが、秋山氏が持参されたユニオンズの貴重な資料に、私を含め参加者が皆圧倒されたのが、今でも記憶に残っている。

この時、秋山氏はユニオンズの資料をまとめて1冊の本にしたいというようなことを語っていたのだが、その日から1年半たった1月末、秋山氏から書籍が2冊、自宅に届いた。

その書籍とは『高橋球団(ユニオンズ)3年間のあゆみ』と題した、ユニオンズの3年間の足跡を記した書籍と、別冊としてまとめられた記録集の2冊。それぞれ316ページ、300ページもの大作を、現在73歳の秋山氏が1人で書き上げたという、かつてない球団史である。

ユニオンズの全試合の記録、在籍していた全選手の成績、記録は言うに及ばず、あの夜すべての参加者が驚愕した、設立申請書や決算資料、株券、入場料の売上といった資料の数々。さらには選手の契約書書類、年棒一覧、変わったところでは当時の本拠地だった川崎球場の売店の売上伝票などといった今まで明るみに出なかった資料とともに、「たった3年間」と言うことがはばかるような足跡を、実は私自身、今なおたどっている最中である。

残念ながら自費出版のため市販はされないとのことだが、野球殿堂博物館には寄贈されているようで、もし目にする機会があれば、高橋ユニオンズの濃密な3年間を、ぜひ体感してほしいと思う。

## 「高橋球団(ユニオンズ)」 3年間のあゆみ

～開かれた最弱球団の苦悩と歴史～  
…歴戦の勇士たち、そして球団の足跡…

1954年(昭和29年)～1956年(昭和31年)



【※編集担当注】「昭和20年代野球倶楽部」とは、神田神保町にある古書店「BIBLIO(ビブリオ)」の店主・小野祥之さんと『最弱球団 高橋ユニオンズ青春記』の担当編集者であり、東京野球ブックフェアの生みの親でもある「編集室屋上」の林さやかさんが主宰して毎月最終水曜日におこなわれる野球ファンの集いで、誰でも参加可能です。日本海外プロアマ問わず、毎回1つのテーマに絞って野球史を語り合います。2014年にはこの集いから生まれた企画として「昭和野球かるた原画展」を開催しました。※毎回の開催予定は「昭和20年代野球倶楽部」のFacebookにてご案内しています。

→ <https://www.facebook.com/showa20th.baseball>

## 「高橋球団(ユニオンズ)」3年間のあゆみ 選手の足跡(記録集)



●『高橋球団(ユニオンズ)3年間のあゆみ』